

檜の木だより

2022年10/1
第108号

ひとりひとりひかる

きぼろ

発行：檜の木福祉会（法人本部）
かしの木の会
一宮市富田字砂原 2147

Tel/Fax 0586-63-2111 / 61-1200

檜の木福祉会 ホームページ

<http://www.kasinoki.jp/>



美味しそう～！！ ～おやマルシェ～



おお～っ！夏だ！！ ～ステップ花火～



笑顔が眩しい！！ ～さらら夏祭り～



青空ステージ ～おやマルシェ～



宵空に浮かぶスカイランタン ～さらら夏祭り～

【 目 次 】

- 1P 表紙、目次
- 2P 法人コーナー「おやマルシェ」
- 3P 法人コーナー「さらら夏祭り」
- 4P 法人コーナー「ステップBBQ」
- 5P 法人コーナー「夏期ボランティア体験」
- 6P 法人コーナー 福祉会情報、他

法人コーナー①

「おやマルシェ」 かしの木サポートプラザ

令和4年7月23日（土）『おやマルシェ』と題しまして、地域交流を目的とした『マルシェ』を開催。たくさんの地元の方々や、地元企業様・地元団体様に参加していただき、盛況のうちに終えることができました。ご来場くださいました地元の皆様や、ご協力いただきました地元企業様や地元団体様には、この場をお借りしまして御礼を申し上げます。そして、少人数で暑い中頑張ってくれたチャイブスタッフの皆さん、本当にお疲れ様でした。



チャイブでは、新型コロナウイルス感染症が流行する前、毎年7月に「チャイブなつまつり」を開催していました。この3年間はコロナ禍の為、中止が続き、今年度はチャイブの改装等も重なり、なつまつりは中止する方向で話は進んでいました。

しかし、5月に入り、地元のお祭りが中止となり、地元の方からの「チャイブさんもやらないの?」という声を受け、何かできないかと考えてきました。『いつもと違う形であれば何かができるのでは!?』

チャイブにはいろんな方々が訪れます。他にはない、地域に開かれたオープンスペース。チャイブの役割のひとつ『地域交流』。これらを基本に『いつもと違う形』『コロナ禍』等を鑑み、どうすればよいか考え出した形が、『キッチンカー』の活用でした。従来の自前で行う模擬店では、コロナ禍での事業所の安全確保が難しい為、感染対策や衛生管理に慣れているプロのキッチンカーを呼ぶことで対応。普段では食べられない美味しいお店のメニューが味わえることで、地域のみなさんにも喜んでいただこうと企画しました。開催時期は、地元で馴染みのあるチャイブなつまつりと同じ7月に設定しました。コロナ感染対策へも、当初の予定以上のできる限りの対策と準備をすることを加え、準備開始となりました。

マルシェ開催にあたり、キッチンカーへの出店依頼を始めましたが、開催まで2か月を切っていました。キッチンカーも既に予定が入っている店が多かったのですが、幸いチャイブでは、今までの活動の中でいくつかのキッチンカーとご縁をいただいていた。そのご縁で、呼びかけにに応じていただけたキッチンカーが別のキッチンカーを呼び、開催の話聞いた方から出店の希望が入ったりと、気づけば出店予定数を超える数の皆様から出店のご協力をいただきました。会場設営の機材や、臨時駐車場の借用にも地元の皆様のご協力でもとも助けられました。

また、マルシェを彩るステージイベントでもこれまでのご縁で参加いただける方や、新たなご縁でご紹介いただいた方達など、素敵な皆様が集まってくれました。

そして開催された『おやマルシェ』。ステージイベントでは素晴らしいパフォーマンスが披露され、大いに会場を盛り上げていただきました。キッチンカーはたくさんの人達にご利用いただき、売り切れ店が出るほどの大盛況ぶり。来場された方々の素敵な笑顔がたくさん見られるマルシェとなりました。



今回の『おやマルシェ』開催目的は、「地域交流」「ご縁」「つながり」でした。開催にあたり、皆様のご縁に助けられ、皆さんの新しいつながりができました。また出店者の皆様にも新しいご縁とつながりができたと素敵なお話も聞いております。チャイブでもこのつながりが新しいつながりとなり、利用者さんの新しい活動への第一歩として広がっていくことを期待しています。

来場された皆様にも、この『おやマルシェ』が、素敵な「ご縁」と、素敵な「つながり」のきっかけになりますことを切に願っています。また次のマルシェでお会いしましょう。

かしの木サポートプラザ
管理者 入山達也

法人コーナー②

「さらら夏祭り」

かしの木の里 らちえっと らでうす

里の「さ」、らちえっとの「ら」、らでうすの「ら」、3事業所の頭文字をとって付けた「さらら夏祭り」のご報告です。コロナ禍でイベント等が自粛になる中、今年の盆踊りは各事業所で企画することになり、かしの木の里は、らちえっと、らでうすと合同で夏祭りを開催しました。8月6日（土）は暑い日にはなりましたが、3施設にサポートプラザの皆さんも参加した事で賑やかな夏祭りとなりました。

企画の段階で、飲食は大丈夫なのか、密にならないだろうかと色々と考慮しながら内容を吟味してきました。コロナで不自由な暮らしが続く中、外出の機会も少なくなり、利用者の方が楽しめる事、皆さんが笑顔になれる夏祭りを企画しました。

感染対策のため、衛生面のしっかりしたキッチンカーに出店をお願いしました。フルーツサンドのお店（フルーツの森白鳥葵様）では旬な果物と生クリームがたっぷりのサンドウィッチが揃っていました。から揚げ、ポテトのお店（唐揚げのみかん本舗様）では揚げたてのいい匂いの揚げ物が出てきました。冷やし焼き芋（ピュアフィールド）の甘いお芋のブースでは、お小遣いを手に利用者の皆さんが、どれにしようか？と考えながら長い列にワクワクしながら並んでみえました。



スタッフの手作りのお店も用意しました。皆さん大好きなフランクフルトやかき氷。暑い日でしたので思わず氷とシロップの量も大サービス。利用者さんの満面の笑顔が見られました。楽しめる体験型も取り入れました。くじ引きや射的ゲームではお目当ての賞品が取れるまで、何度も挑戦するなど日頃できない事を思う存分楽しんでみえました。



和太鼓の得意なスタッフに誘われて、夕焼けをバックに太鼓を叩きながら、胸に「ずん」とくる響きを奏でている利用者の方の姿には、感動さえ覚え微笑ましくなりました。



クライマックスはスタッフが準備した花火と、皆さんがそれぞれの思いや願いを書き描いたランタン（スカイランタン）の打ち上げです。ランタンが夜空に打ち上がると、大きな拍手と笑い声が、かしの木の里から木曽川を越えて天へと響き渡りました。



日本スカイランタン協会様のご協力、レクリエーション担当スタッフが感染対策に配慮しながら日々の支援の合間に企画し準備をして開催した「さらら夏祭り」は、利用者の方が生クリームを頬にたっぷり付けながら大きな口でかぶりつく姿や、夜空に飛んでいく色とりどりのスカイランタンを大きな歓声で見送る姿を見られた事で大成功に終える事ができました。

まだまだ緊張の日々が続きますが、日常の中で「ほっ」とした和やかな空間や、皆さんの笑顔がたくさんになる環境が提供できるように、私達は暮らしを支えていきたいと思えます。

イベントを通して地域の方と触れ合う機会の大切さを改めて感じました。これからは私達が地域のイベント等に参加したり、街に出ていく機会をサポートしていけたらと考えます。

かしの木の里 施設長 山口由美子

法人コーナー③

「ステップBBQ」 ステップ

当初、榎の木作業所、榎の木園、ステップの3事業所合同で、地域の方々も招きながら開催する予定で計画していた盆踊り大会も、オミクロン株の急拡大により中止せざるを得なくなり、急遽各事業所単位で代替行事を開催することになりました。

15時。「わがんせ」から順番に「さいた」、「明地」の利用者さんが集まってきました。「わがんせ」の利用者さんには、手袋をしてピーマンの種を取ることや、キャベツ、玉ねぎを切ることを手伝ってもらいました。普段から家でお手伝いをしていて慣れている利用者さんや、慣れないことに「これでいい?」とスタッフに聞きながら進めていく利用者さんなど、いつもと違う姿が見られて新鮮でした。

「さいた」・「明地」の利用者さんには、椅子の準備と、火起こしを手伝ってもらいました。椅子の準備では、思わぬところにまで並べてくださり、笑いが起きて場が和みました。火起こしでは、スタッフの思っていた以上に火が起きなくて苦戦しました。しかし利用者さんがスタッフと協力してうちわであおいでくれたため、大きな火を起すことができました。

17時。準備が完了して、バーベキュー開始! お肉や野菜をもらった人から、各々お肉を美味しく頬張る姿が見られてとてもよかったです。他にも少しずつでき上がる焼きそばに並んでももらったり、「わがんせ」のお店のジュースを買ったりと、それぞれ自分のペースで有意義に時間を過ごしていました。美味しかったかどうかを尋ねると、「美味しかった、お腹いっぱい!」「もう食べられない!」と全員が満足するまで食べてもらうことができました。



18時。バーベキューが終わり、花火! いろいろな種類の打ち上げ花火を全員で囲んで見ました。夏の雰囲気を楽しめることができました。また、スタッフが一人ずつ前に出て今後の抱負と、利用者さんの質問に答えることになりました。それが終わると、率先して前に出て自分の目標を発表する利用者さんもありました。



私自身、今年度から社会人となり榎の木福祉社会の一員として働かせていただいて、5月に行われた運動会から2つ目の行事でした。普段のお仕事をしている様子とは違う、利用者さんの楽しそうな姿を見られて、私も一緒に楽しむことができました。

また、今までステップだけの行事で、みんなで集まって何かをしたことはありませんでした。コロナ禍で盆踊りから変更があったからこそできたことでもあるので、いい機会だったなと思いました。普段関わりの少ないスタッフとも交流でき嬉しかったです。

これからも、十分な感染対策を取りつつ、今回見つけた反省点を活かして、利用者さん、スタッフが共に楽しむことができる行事を考えていきたいと思っています。

ステップ

支援員 南垣更

法人コーナー④

令和4年度夏期ボランティア体験

中部善意銀行様、一宮市社会福祉協議会様を通してそら豆キッズ・かしの木サポートプラザに、20名程の中高生からボランティアの申し込みがありました。

そら豆キッズは、未就園児・就園児対象の児童発達支援(児発)や小1～高3対象の放課後等デイサービス(放デイ)事業を展開しています。

8月5日に放デイに3名の高校生のボランティアに来ていただき、子どもたちを見守りながら活動の準備、消毒や片付け作業をしていただきました。

小1グループに参加してもらった方は、少し緊張していましたが、少しずつ子どもに話しかけたり遊んだりする姿が見られました。

小3～小6グループに参加してもらった方は、夏恒例の色遊びで、絵の具を使い画用紙に書く様子を見守ったり、また子どもと手をつなぎながら一緒にままごと遊びをしたりする姿が見られました。



ここで、ボランティアに参加された学生さんの声をご紹介します。

- Aさん： 将来、障害があるないに関わらず、親と暮らせない子どもや居場所のない子どもと関わる仕事をしたい。子どもは大人みたいにお金を稼ぐことができないし、行動範囲も限られているので、そんな子どもを支えたい。
- Bさん： 真っ白な紙に絵を描くなんて凄い！私には描けない。子ども達が帰る車から手を振ってくれたのが可愛かった。
- Cさん： 将来のことは考えてないけれど、子どもが好きです。

申し込み人数の多さには驚きと戸惑いがありましたが、多くの学生さんとの出会いを嬉しく思いました。ボランティアさんが積極的に子どもと関わる姿を見てとても嬉しく思いました。

そら豆キッズ 野田美穂子

かしの木サポートプラザは、就労継続支援事業B型「おやまのカフェ」「きらり」と生活介護事業「こまこま」「ミント」と日中一時支援事業を展開しています。

今回は、「おやまのカフェ」と「こまこま」でボランティアの体験をしていただきました。「おやまのカフェ」では、利用者さんとスタッフが接客している様子、利用者さんの作業や職員の関わり方を見学してもらいました。その後、店内の掲示物を実際に利用者さんと一緒に貼ってもらいました。

「こまこま」では、自主製品を販売しています。利用者さんが商品を作成するサポートや、販売に必要な準備を一緒にしてもらいました。また、身体が不自由な利用者さんもいるため、軽いリハビリや散歩に参加してもらいました。

ここで、ボランティアに参加していただいた中学生のアンケートの一部を紹介します。

(質問) ボランティアに参加してどうでしたか？

- Aさん： 初めてのことで最初は緊張したけど、活動を進めていくうちにできることも増え、多くの方と接することができとても楽しかったです。
- Bさん： 障害者の人と関わるのが初めてで戸惑いもあったけど、施設の方々のおかげでとても楽しく気軽に参加できました。

この日は、外部団体の方による読み聞かせもあり、ボランティアの方々にも利用者さんの様子や施設内の雰囲気を知っていただける、よい機会になりました。

ボランティアに参加して楽しかったという声を聞き、今後少しでも障害福祉に興味や関心を持っていただけることを期待しています。

かしの木サポートプラザ 須田葉月

■お問い合わせ■

TEL : (0586)63-2111
 FAX : (0586)61-1200
 HP : <http://kasinoki.jp>

ボランティアさんを随時募集しています！

福祉会情報

～法人内研修について～

～かしの木フェスティバルについて～

かしの木フェスティバルは、「誰もが共に支え合い暮らせるやさしい街づくり」をモットーとして、榎の木福祉会及びかしの木の会が、地域との交流と啓発を目的に、障害の有無に関わらず、こどもから大人まで多くの人たちが誰でも参加できる催しとして、毎年秋に開催してきました。

しかしながら、ここ3年間は新型コロナウイルス感染症の感染拡大が止まらず、やむを得ず中止することが続いてきました。このような状況下で、今年度も大々的に開催することは難しいと判断し、各事業所で代替行事を企画し実施することにしました。

皆様におかれましては、今後も感染対策に留意しながら、来年度以降の開催にご期待いただきますようお願いを申し上げます。

～広報「きぼう」のバックナンバーについて～

広報委員会では、過去の広報誌について、創刊号まで遡ってホームページで閲覧できるよう、現在バックナンバーのPDF化、ホームページの更新作業を進めています。閲覧できるようになりましたら、ホームページ、広報誌にてお知らせさせていただきます。乞うご期待！！



榎の木福祉会では研修委員会が中心となり、法人の中長期計画に基づき、スタッフの人材育成を図るため、研修の企画・運営をしています。

スタッフ達がスムーズに研修を受け、スキルアップできるよう、経験年数や福祉情勢の動向に合わせた年間の研修計画を立て、講師の依頼、研修会場の確保、打ち合わせなどを行なっています。

コロナ禍のため、感染対策として少人数制にしたり、ビデオ学習やZOOMなどのオンラインの活用もしながら、学ぶ機会が減らないよう努めています。

研修委員会では、令和4年9月3日(土)に成年後見制度について研修会を行いました。法人内の複数の利用者さんの成年後見人を務めておられる、行政書士の内藤広子氏を講師に迎え、制度利用のきっかけや基礎的なこと、成年後見人としての業務を通じて感じたことなど、事例等交えながら分かり易く教えていただきました。



本会では、利用者さん自身と親御さんの高齢化に伴い、成年後見制度の活用が益々見込まれる状況にあります。制度を上手く活用し権利擁護に努めていければと考えています。

榎の木福祉会 研修委員会

お知らせ

- ◆びさいまつり 10/22 (土)
10/23 (日)
- ◆一宮福祉ジョブフェスタ 2022 秋
10/22 (土)
- ◆かしの木の里「そうぞうのとびら展」
は中止です。



かしの木の里の利用者さんが塗った「アマビエ」(疫病封じの妖怪)の塗り絵